

# 入 選

## 見えない海から感じる水

川口市立高等学校附属中学校 三年 棹山 栞風

SDGsの六番目の項目「安全な水とトイレを世界中に。」二〇一五年に掲げられたこの目標は、十年たった今深刻化が進んでいます。

私たちの隣国である中国では北部地域の水不足や工業化や都市化による過度な水利用、水質汚染など様々な課題を抱えています。また、これらは中国だけでなく発展途上国で起きているのはもちろん、日本も直面している大きな課題です。

私の住む埼玉県は海がありません。夏などの海水浴シーズンになると少し寂しい気持ちになります。だからこそ埼玉県では水の使い方多くの工夫や努力を凝らしています。そして、そんな埼玉県の行う取り組みはこれからの世界の水問題を解決するうえで、大切なヒントになると思います。

埼玉県は海のない内陸県のため、海水を使うことができません。そのため、川や地下水などが主な水源です。たとえば、利根川や荒川などの河川の水は、浄水場などで浄化され水道水となつて、私たちのもとに給水されます。私の住んでいる川口市では、水道水の約八割以上がこのような県水で支えられています。

そのため埼玉県では、水源開発や水源地域との連携の強化を進めるべく、県内の市町村が話し合う機会を設けたり、下水処理などにも力を入れていきます。また、雨水を集めトイレの流し水として使うシステムや、地下水を守る活動などといった取り組みが多く行われています。

先ほど提示した中国はもちろん、水問題は世界中で規模が広がっています。地球温暖化などによる気候変動で雨の降らない地域が増えたり、人口の増加による水不足など、各国がそれぞれ異なった水に関する課題を抱えていると、近年ニュースなどを見てとても感じることも多くなつた気がします。また、河川が汚れ安全な水が飲めない人も多く、国連

によると、そのような人々は世界中に約二十億人以上もいるといわれています。

こうした問題を解決するためには、埼玉県のように水を無駄にしない工夫や水をきれいにして何度も使う努力がとても大切となっていくと思います。またこれからの第一歩となるのは制度やインフラだけでなく、私たちの行動なのではないでしょうか。まずは自分たちの直面している課題や世界情勢について学んだり、小さなことでも一人一人が自分のできる行動をとることで、この課題も少しずついい方向に進んでいくのではないかと思います。

海のない埼玉県だからこそ、水のありがたさや水を大切に扱う必要性を学ぶことができると思います。私はこのような埼玉県の取組をもっと他県や他国などの多くの人に知ってもらい、これからのために役立てていってほしいと思います。今起こっている水問題は、課題に直面している国や人々だけでなく世界中の人々や地球全体の課題であることと同時に、私たち一人一人の課題でもあります。だからこそ私自身も、今ある水を大切にして、未来のためにできることを考えながら行動を起こしていきたいです。